

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年3月23日

社会福祉法人バオバブ保育の会 御中
若葉台バオバブ保育園

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	若葉台バオバブ保育園			
事業所連絡先	〒	206-0824		
	所在地	東京都稲城市若葉台四丁目17番地		
	TEL	042-331-6258		
事業所代表者氏名	伊藤 裕子			
契約日	2022年	8月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022年	11月	14日	
利用者調査結果報告日	2023年	1月	5日	
自己評価の調査票配布日	2022年	11月	9日	
自己評価結果報告日	2023年	1月	5日	
訪問調査日	2023年	1月	12日	
評価合議日	2023年	1月	12日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが毎日を安心して過ごせて、心身ともに健やかに育っていける場となるように努める。 ・保護者が安心して子どもを預けられる場となるように努める。 ・保護者と共に、子どもへの理解を共有し、共に育てる関係となれるよう努める。 ・職員どうしが思いやりを持ちながら、お互いの持ち場を理解し、支え合える関係になるように努める。 ・保育所が地域の子育て世帯（妊婦から）を支える拠点になれるよう努める。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>人としての寛容さを持ち、子どもや保護者に寄り添える人。自分の保育をふり返り、同僚と共に保育を高め合い、職員集団の一人として園全体の向上を目指そうとする。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であることの意識を明確に持ち、その役割を果たして欲しい。その役割を果たすための組織的な努力、個人的な努力はどうあるべきかを常に考えた積極的な行動を取って欲しい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯99(在籍児童数121)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	121
利用者家族総数(世帯)	99
共通評価項目による調査対象者数	99
共通評価項目による調査の有効回答者数	57
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	57.6

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」75.4%・「満足」24.6%の計100%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「食事」「子どもの興味・関心の伸長」「保護者との信頼関係」など、全17問中16問で80～90%台の高い支持を得ている。
 自由意見では「木の温もり、おいしいご飯、楽しい園庭、ロフト、安心して子どもをお願いできる」「子どもの発想を大切に、子ども同士の関わりを見守りつつ介入しすぎず、気持ちのやり取りを大切にしてくれ、食事がおいしい」「大人の方々が本当に皆優しく子どもたちにいつも丁寧に接してくれ、対応は自分の子育てを振り返るきっかけにもなっており、子どもが食に興味を持てるようにいろいろ工夫して関わってくれているところもよい」「子どもの興味を一番に尊重しながら、生活習慣指導や自然のふれ合い、食育をしてくれる」「子どもにきちんと「子ども時代」を持たせてくれる園だと思う」「親身になって相談に乗ってくれ、園と保護者とで一緒に子どもを育てていく雰囲気がとてもよい」などの声が寄せられている。
 さらになる向上を望む意見としては、行事や安全・保健衛生、保護者の就労・負担への配慮に関する事などが見られ

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	56	1	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。 自由意見は22件で、「いつも子どもたちのことを一番に考えて、いろいろ活動してくれていると思う」「子どもの育ち、発達、それぞれの気持ちに配慮してくれて最高の保育園だと思っており、どの先生にも安心して見てもらえる」「親からは学べない、子ども同士の関わりで学べるのがたくさんあると思う、発話も増え人見知りが減り、着替えやトイレトレーニングも刺激になっているようだ」などが寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	55	2	0	0
「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。 自由意見は11件で、「お絵描きやダンスなど好きなことを選ばせて本人がやりたいことを行っている」「先日の秋刀魚の日では、庭で秋刀魚を焼いて食べたそうで、ほかにもお米を育てたり草木染めをしたり、簡単にはできない経験をさせてくれている」「園庭でも部屋でも、園内全体でさまざまな遊びを教わっていると思ひ、とても楽しそうだ」などのほか、遊び以外の教育や保護者への日頃の活動等の報告・伝達などについて、さらなる工夫を望む声が見られる。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	1	0	0
「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。 自由意見は20件で、「手作りのものが多くて本当にありがたく、季節に応じて梅や味噌汁、家庭でもできるようにと作り方で教えてくれて最高である」「旬の物をたくさん採り入れたり、調理の方が話を聞かせてくれ、貴重な経験をさせてくれてありがたい」「ご飯は栄養バランスや衛生面、そして自然派でありとても素晴らしいと思ひ、季節に合わせた食材などにも子どもが触れるようにしてくれていてとてもよい」などのほか、カルシウムの摂取方法に関する意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	48	7	2	0
<p>「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が12.3%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は19件で、「広い庭やプールなどのびのびと遊んでいると思われ、また車道を通ることなく近所の広い公園にお散歩したりと環境に恵まれている」「泥遊びや宝物(ドングリ、石など)を持って帰ったりしている」「コロナ禍でもありなかなか思うようにできない中でも、何とか子どもたちを楽しませようと尽力してくれていると感じる」などのほか、行事等のさらなる充実を望む声や、その制限の要因となっているコロナ禍に言及する内容が見られる。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	44	3	0	10
<p>「はい」が93.6%、「どちらともいえない」が6.4%となっている。 自由意見は6件で、「直前の変更でも嫌な顔せず受け入れてくれて本当に助かっている」「柔軟に対応してくれ、園からのプレッシャーなどもなく感謝している」「子どもだけでなく親にも気遣いや声かけを頻繁にしてくれて、本当に素晴らしい職員の方が多いと思う」などのほか、延長保育の利用時間について、さらなる検討を望む声が寄せられている。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	14	1	0
<p>「はい」が73.7%、「どちらともいえない」が24.6%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は15件で、「多少古くなっているものの、すべて良質な木材などが利用されているため劣化を感じず、また安全だと思う」「今門の工事を行っていて、さらにセキュリティ面での強化がされていくと思う」「ケガをした時の対応(状況説明、対策)がしっかりしているので、信頼している」などのほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、設備面等について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	48	8	0	1
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。 自由意見は6件で、「金曜の夕方や祝日を選んでくれているので、参加しやすい」「イベントを日曜日や祝日にくれているので、土曜日にも仕事をしている家庭にとっては参加しやすく、大変ありがたい」「プレイデーは小学校を利用することもあり、祝日なので参加しやすかった」のほか、コロナ禍の影響による行事の減少や日程連絡の時期、リモート会議ツールの利用などに関する声が寄せられている。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	55	2	0	0
<p>「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。 自由意見は16件で、「連絡ノートや日々のお迎えの時に悩みを相談でき、保育園での様子を教えてくれたり親身に聞いてくれる」「子どもだけでなく親に対しても少しの変化でも気づいてくれ、心遣いが素晴らしい」「いつも子どもに丁寧に関わってくれて、子どものことを尊重してくれているので安心感と信頼がある」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	2	0	0
<p>「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。 自由意見は6件で、「木の温もりや掲示物などの手作り感もあり、大人も子どもも落ち着く空間だと思う」「木の家具が本当に素敵である」「古きよきものを大切に清潔な園だ」などのほか、施設の老朽化への対応に関する声があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	6	0	0
<p>「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%となっている。 自由意見は4件で、「保護者にも〇〇君(ちゃん)のお母さんではなく名前で呼ぶなど、配慮してくれている」「話しやすい方ばかりで、とてもよいと思う」「みなさん素敵なお方ばかりである」のほか、職員の子どもへの言葉遣いについて、さらなる配慮を望む声が見られた。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	53	2	1	1
<p>「はい」が94.6%、「どちらともいえない」が3.6%、「いいえ」が1.8%となっており、「はい」の値は前回(2019年度・以下同、84.6%)からさらに良化している。</p> <p>自由意見は8件で、「小さなことでもそのつど知らせてくれ、ちゃんと見てくれている安心感がある」「すぐに職場に電話をくれてこまめな連絡がありがたい」「ケガをした際には必ず状況説明と処置をしてくれている」などのほか、ケガの把握・対応や保護者への説明について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	2	0	8
<p>「はい」が95.9%、「どちらともいえない」が4.1%となっており、「はい」の値は前回(81.0%)からさらに良化している。</p> <p>自由意見は5件で、「子ども同士のトラブルも細かく教えてくれ、こんなことがあっただけでなく、いつもこういう関わりの中で子どもたち同士成長していていることや、大人の方が見守ったら仲介してくれたりしていると感じる」「知らせてくれるので家でも子どもへ声をかけることもでき、大きな問題には発展していないように感じる」「素晴らしいと思い、相談すると真摯に対応してくれる」などがあつた。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	55	2	0	0
<p>「はい」が96.5%、「どちらともいえない」が3.5%となっている。</p> <p>自由意見は5件で、「子どもをとて尊重してくれる」「いつも子どものことを尊重したうえで対応してくれていると思う」「『やりたい！いや！』などさまざまな気持ちがある中で、子どもの気持ちを尊重しながら保育してくれていて、ありがたく思っている」などのほか、「普段の様子があまりわからないので、よくわからない」との声が見られた。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	50	3	1	3
<p>「はい」が92.6%、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が1.9%となっている。</p> <p>自由意見は2件で、「他のお子さんのプライバシーに関わる話を大人の方から一切聞かないので、わが子についても同様だと思っている」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声があつた。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	54	2	1	0
<p>「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%となっている。</p> <p>自由意見は5件で、「連絡帳も毎日丁寧に書いてくれ、日中の様子がよくわかりありがたい」「お便りや懇談会で、クラスでこういうことをしたい、こういう風に過ごしたいと伝えてくれていると思う」「いつも『今日はこういうことをしました』という壁新聞を壁に貼ってくれ、お迎えに行けない人にはその新聞のコピーをくれるので、とてもわかりやすく内容が伝わる」などが寄せられている。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	50	3	0	4
<p>「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%となっている。</p> <p>自由意見には「わが子が登園に関して困った時、できるだけ登園しやすくなるような事前の声かけをしてくれ、できる限りのことをやってくれていると思う」「親からの意見もちゃんと聞いてくれている、そのつど話し合ってくれていると思う」「忙しい中でもきちんと聞いて、相談に乗ってくれる姿勢がとてもよい」「不満は特にない」の4件が寄せられている。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	38	6	0	13
<p>「はい」が86.4%、「どちらともいえない」が13.6%となっている。</p> <p>自由意見には「総じて素晴らしい園で、通えていることに感謝している」の1件があつた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	運営や子どもの育ちにおける園・法人の願いを保護者に表明し、理解の共有に努めている 子どもたちが「自分を大切に思える人」「柔らかに開かれた心を持ち、様々な人と共に生きていける人」へと育てゆくことを法人共通の願いとし、園を子どもたちの生活と育ちの場、かつ保護者との協同の場と位置づけるとともに、その実践における基本方針や、年齢クラスごとの成長のイメージを定めている。保護者にはこれらを見学・入園時に説明し、懇談会や保育参加、保護者と職員がさまざまな共同作業を行う「ワークショップ」、園・クラスの便りや「壁新聞」等での保育と子どもの育ちの発信など、多様な機会と媒体によって相互理解を深めている。	
	目指すものを組織全体で共有しつつ、現場の主体性を活かした園運営に取り組んでいる 上述の法人共通に目指す保育や子どもの育ちのあり方を、職員には法人による入職時のオリエンテーションにおいて理解と実践を促し、園内での年度当初の職員会議でも再確認の場を設けている。また毎年度の中間・期末の振り返りをはじめとする日々の会議でも、保育や子どもに関する具体的な話題を通じて共通理解を深めている。経営層は毎年度の事業計画の配付と説明のほか、折々の会議等で園の方針を現場に発信し、各職員の特性や個性の発揮を活かした現場主体の組織運営を引き続き大切にしつつ、コロナ禍後の経営環境の変化への対応にも努めている。	
	必要なことを話し合い、決定事項等を職員や保護者に周知させる仕組みを整えている 日々の現場の検討課題を、クラス・ブロック単位の会議で話し合い、それらの集約を、毎月の上席者や看護師・栄養士による運営委員会、その前半に設ける連絡会議や、年3回程度行う全職員参加の会議などで行い、組織の総意として意思決定を行う流れとしている。また法人共通の方針・施策は、系列園の園長が集う企画調整会議で話し合われ、前述の各会議や毎日の屋のミーティング等で現場に伝えられる。決定事項などの必要な情報は、議事録や個別の伝達によって欠席者や准職員に周知され、保護者には主に書面により、各種の重要な連絡事項を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>法人・園の中・長期計画と、年度の日標・重点課題等を定めた事業計画が作成されている</p> <p>法人策定の2012年から各5年・3期の15年計画に、組織運営・施設整備・財政・保育・地域福祉・研修などの各分野で、策定当時の現状認識に基づく課題・目標を「大綱」として示し、2019年に一部改定している。また当年度の園の課題・目標と、保育や保健・安全、食事・食育や保護者・地域支援など、同計画と連動する各分野の取組・方針を事業計画として定め、年度当初に園長が職員に説明している。これらに加え、今年度を含む6か年の「短期中期計画」に、「体制・保育他」「工事・補修関係」に関する年度ごとの当園の重点課題を定めている。</p> <p>保護者や職員の声の把握と、それらも踏まえた各業務の計画の作成・実行がなされている</p> <p>保護者の声を、定期的な第三者評価受審時の利用者調査のほか、保護者懇談会やより自由な懇談の場「おしゃべり会」、保育参加や種々の行事の際の保護者との会話や、毎日の送迎時や個別の面談の際の意向把握などを通じて収集している。また職員の意向を、前述の各会議や年2回行う意向調査、個別の面談などから把握している。保育や行事、防災・保健などの日常業務では、これらの保護者・職員の意向も反映させた、年間計画と具体的な取組内容・ねらい等を定めた各計画が作成・実行され、計画の内容・期間に応じた進捗確認や見直しがなされている。</p> <p>地域や行政・業界の動向、園の経営状況を把握し、事業計画立案などの参考としている</p> <p>市の私立保育所園長会や中学校区ごとの「地域教育懇談会」などを通じ、市内・地域内の保育・教育や子育てなどの状況を把握するほか、入園前見学や地域向けの子育てひろば事業で来園する未就園世帯から、身近な地域の子育て等の状況やニーズを把握している。また関連する行政・業界の動向を、左記の市の園長会や行政・関係団体の各種発信、法人内の会議などから把握するほか、園の予算の作成と執行状況の管理などを、経営層が業務委託先の支援のもとで行っている。事業計画の立案時には、これらの情報や上記の保護者・職員の声も参考とされている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>保育に携わる者として自覚し守るべき種々の規範・倫理が、全職員に啓発されている</p> <p>保育の理念・目標等のほか、子どもの人格の尊重と尊厳や心情に配慮した肯定的な関わり、機密保持の徹底などについて、園長が正・准の各職員に対し、毎年度の開始時に資料をもとに啓発を行っている。また入職時にも「職員綱領」をはじめとする法人共通の規範をもとに、子どもの人格・人権の尊重と保護者との協同、地域の社会資源としての役割、職員集団としての協働と互いの尊重、子どもの身近なモデルたるべき自覚など、法人の保育者としての規範・倫理が伝えられ、今年度は法人合同の研修でも外部の有識者を招き、人権に関する研鑽の場を設けている。</p> <p>園・家庭での虐待の防止や、保護者の意向への最善の対応のための仕組みを整えている</p> <p>日頃子どもへの関わりについて、全職員が保育士団体作成のチェックリストをもとに自己点検を行ったうえで、「振り返りシート」に自身の内省をつづり、会議で語り合う機会を設けている。また虐待に関する市・園の各手引書を常備し、関係機関との連携の体制を整えており、園作成の手引書は最新の法令・ガイドライン等をもとに、内容を見直すことも期待される。苦情解決制度や玄関の「何でもご意見箱」、毎日の会話・連絡帳や個別の面談など、保護者が要望・苦情等を園に伝える手段を多様に整え、寄せられた声には案件に応じた最善の対応を図っている。</p> <p>地域に根づき、開かれた園として、多様な取組を通じて地域の福祉と子育てを支えている</p> <p>ホームページや稲城市、門扉前の掲示板や近隣の各所での広報を通じ、園の各種情報を発信するほか、実習生や職場体験生・ボランティアの受け入れも積極的に行っている。また市の私立園園長会や地域の中学校を拠点とする「地域教育懇談会」、園長が委員を務める市の子ども・子育て会議など、地域内のネットワークにも複数参画している。昨年度から再開した子育てひろば事業では、専用室「スイミー」での遊びと元職員の知見・専門性も活かした子育て家庭同士の語り、園庭開放や身体測定・保健相談など、地域の育児を支える多様な取組を行っている。</p>		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>SIDS・熱中症や日常の各種事故の防止など、重要なリスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>乳幼児が生活する施設として、子どもの睡眠時の状態確認や夏季の戸外活動の自粛など、SIDS・熱中症対策を日常的に行うほか、コロナ禍発生後は各所の換気・消毒や職員・来園者の検温とマスク着用など、感染症対策にも注力している。また日常の子どものケガなどの事故発生時には、遅滞なく事例の詳細の確認や原因・対策の検討を行い、直後の屋のミーティング等での現場への注意喚起や、環境・援助両面の必要な改善を行っている。ヒヤリハットも同様に収集と共有を行っており、その活性化を通じた日常に潜むリスクの顕在化にも取り組まれている。</p> <p>災害・不審者などへの対策や、組織内の委員会での各種リスクに関する検討を行っている</p> <p>消防署の心肺蘇生・異物除去訓練を毎年度設けるほか、毎月の避難訓練ではさまざまな場面での災害時の対応を確認している。また敷地内各所のカメラ監視、警察署の協力のもとでの毎年度の防犯訓練など、不審者対策もなされている。組織内の「安全防災委員会」が概ね毎月会議を行い、災害その他の各種リスクに関する検討を行っている。法人共通の「危機管理マニュアル」が、現状では事業継続計画(BCP)の機能も兼備し、災害発生3日後までの運営再開に向けた流れが示されている。感染症等に関するものと併せ、計画としての具体化と周知が望まれる。</p> <p>各種情報の利活用と適切な管理の徹底を図るため、環境や仕組みをさまざまに整えている</p> <p>各種情報の管理・利用、機密保持等について、法人共通の関連規程や手引書「BBハンドブック」に方針や実務上の諸注意を定め、職員には入職時など、実習生等には受け入れ時に啓発を行っている。またPCのログイン制限や電子データ類のアクセス権限の設定、重要書類を管理する書庫・部屋の施錠など、情報漏洩の防止にも配慮するほか、オンライン研修受講の増加などに対応し、PCの増設や通信環境の整備も行っている。保護者が記入・提出する各書類には個人情報の利用目的を記載し、子どもの肖像の利用などについては、入園時に同意確認を行っている。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評			
<p>人材の確保と園の状況を踏まえた異動・配置、労働環境面の各種整備がなされている</p> <p>職員の募集・採用は、正職員は法人、准職員は各園が行い、法人サイトでの情報発信や各種養成校・採用機関との連携など、多様な媒体・方法による人材の確保を図っている。配属・異動は各人の意向なども踏まえ、法人内の「企画調整会議」で検討・承認され、配置は各人の意向を把握したうえで、各クラスの状況や現場の声をもとに、保育の安定継続とチームとしての経験等のバランスなどを考慮して行っている。職員の就業状況の管理や産業医・カウンセラーとの連携など、労働環境整備にも努め、今回の職員自己評価も踏まえ、さらなる改善を図る意向である。</p> <p>育成・研鑽の指標や、各人の振り返りと面談を軸とした個別育成の仕組みを整備している</p> <p>職員の育成・成長の法人共通の指針として、初任者から管理者までの各階層に望まれる能力・資質と研鑽を「職員としての育ち合い」ファシリテーションプログラム」に示すほか、国の処遇改善制度に対応する各職位区分と、それぞれに求める役割・能力を別途定めている。また各職員が「個人の振り返りと学び」に、子どもや保育から学んだこと、職員としてのあり方の振り返り、今後の自身の課題と研修実績及び次年度の受講希望などを記入し、園長が面談によって各人と共有するほか、研修参加・OJTや各人の自己研鑽の指針とする仕組みが設けられている。</p> <p>内外での研鑽や組織内での多様な語らいの場が、園の保育の質と組織の活力を高めている</p> <p>今年度は有識者を招いて子どもの人権について学んだ法人合同の研修、保育や絵本、子どもの発達などに関する各種の外部研修など、内外で各職員が専門性を高め、報告会の実施や報告書・資料により、組織内で学びの共有化を図っている。日常の会議での保育や子どもなどに関する話し合いのほか、「エピソードの会」では保育日誌をもとに子どもの姿について考察を深め、半期ごとの「振り返りと学び」ではクラス・部署の垣根を越え、子どものエピソードや業務実践の成果・反省を共有し、職員間の共感と協同性や、園の保育と各部署の実務の質を高めている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>前回の第三者評価受審後、利用者調査で寄せられた保護者の懸念の声なども考慮し、侵入対策の強化を念頭に、門扉のセキュリティ向上について検討を始めた。法人内の系列園や地域の他園の状況も参考としながら、安全性や使い勝手のよさ、長期的な使用に耐えうる堅牢さ、従来と比較してより安心できる門の形状や高さなどに関する情報収集を行うとともに、費用の抑制を図る観点で、従来のものを活用することが可能かなどについても検討した。</p> <p>また年度の事業計画・予算にも、門扉の工事及びその概算の費用を記載した。</p> <p>検討にあたっては、設備の更新による安全・安心の向上だけでなく、開閉にかかる時間や手間など、毎日の使用に際しての保護者の負担や不便が増すことのないよう、業者への聴き取りを念入りに行うよう努めた。また従来の門扉への愛着の声も聞かれていたことから、新調の際にも従来のものをできるだけ活用することを念頭に、メンテナンス面や精密機械である鍵部分との相性なども踏まえて検討を重ねた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>具体的な候補として2社の商品を選定し、ショールームでの視察と担当者への照会を行ったところ、柵の長さや幅には所定の規格があるため、高さや長さ、設置の仕方などはそれを基準に検討する必要があることや、部品の海外からの輸入の関係などから、年度内の設置は困難であることが判明した。また想定される新しい門扉及び鍵の形状から、現状のものへの再利用は難しいことも把握された。</p> <p>今年度も検討を継続し、事業計画・予算には、門扉の改修工事を行う旨と、諸般の状況を踏まえて増額した費用額を記載した。新年度開始後に設置工事を行い、門扉の新調に至っている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

2019年度以降、0歳児クラスでは排せつの自立の支援におむつをできるだけ使用せず、子どもがおまるに座り、排便する経験を重視する、「おむつなし育児」に取り組み始めている。その実践を通じて得た現場の経験と知見を活かし、1・2歳児でも徐々に採り入れており、法人内でも一昨年度のコロナ禍発生後の自粛期間を活かし、勉強会が開始されている。昨年度もそれらを踏まえ、おむつなし育児を乳児の各年齢で進めることとし、事業計画にも年度の目標の一つに加えた。
0～2歳児の各クラスでおまるを子どもたちの身近に置き、保育者がそれぞれの子どもの身体のリズムを把握しながら、午睡明けなどの生活の各場面で、タイミングを見ておまるに座るよう声をかけ、子ども自身が尿意の感覚や排尿後の爽快感を体験できるよう援助している。おまるに座ることを子どもに無理にけしかけたり、おむつ外しを急ぐのではなく、一人ひとりの発達や身体のリズムに応じた感覚の育みを大切に、園・クラス便りを通じて保護者にも発信することで、家庭でも徐々に取られるようになった。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもが神経質にならないよう、各クラスとも自然な声かけを大切に、年間を通じて取組を行った。0歳児では子どもたちの排便の感覚を意識し、おまるに自由に座れる環境づくりや、おしっこが偶然出た時の感覚を子どもが意識できるような働きかけも行った。午睡明けには排尿ができることが多いことなども踏まえ、無理のない排せつの支援に努め、1・2歳児でも同様に個別の排せつのリズムや一人ひとりの感覚に配慮し、自立を促す援助を行っている。
保育者間でも関連の書籍や研修を通じて見識を高め、乳児ブロックでの話し合いを通じて、それぞれの年齢に即した援助のあり方を探った。年度の振り返りでは、各年齢で保育者が見通しを持ちながら子どもに関われるよう、各クラスの取組をクラス間で共有する場も設けている。
おむつなし育児は保護者の理解と協力も得られ、年度の振り返りでも充実した1年となったとの報告がなされている。上述の通り、保護者への発信にも努め、関心を持った家庭が休日に園と同様に布パンツで過ごさせる例も見られている。
今年度も事業計画の年度目標の一つとして、引き続き子どもの排せつに関するさまざまな感覚の経験と育みを大切に、丁寧な関わりに取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリ-1の講評		
	<p>ホームページに園の概要を掲載し、写真や「壁新聞」で園の様子を伝えている</p> <p>園のホームページには、所在地や連絡先といった施設の概要のほか、クラス編成や年間行事予定、第三者評価の結果などを掲載している。園舎・園庭・子どもの姿などの保育園の様子がうかがえるフォトギャラリーがあり、日常の保育の様子を伝えている。また法人のホームページでは、法人が心がけている保育の考え方を紹介しており、市のホームページにも所在地・電話番号・定員・開所時間のほか、前述の園のサイトへのリンクも設定されている。園内には日々の保育を伝える「壁新聞」を掲示しており、見学で入園希望者を案内する際などに見てもらっている。</p> <p>見学者を受け入れ、保育の特徴や環境構成の工夫などを説明している</p> <p>入園前の見学は、毎月2日程度の見学日を設定して実施し、さまざまな質問を聞けること、見学者同士の交流が生まれることなどの理由から、できる限り複数名で行うようにしている。また園が設定した日程では都合がつかない場合には、他の受け入れが可能な日に実施するほか、希望があれば個別での案内も行うなど、柔軟に対応している。見学では、園全体を知ってもらうため、子どもの年齢に関わらず、すべての保育室を見てもらおうようにしており、保育の内容や環境構成の工夫のほか、食事・行事・卒園後のつながりなどを説明し、適宜質問に答えている。</p> <p>多様に行う地域子育て支援事業は、園の専門性や特徴を知ってもらう機会となっている</p> <p>地域の子育て家庭の「かかりつけ保育園」として、一時保育の実施のほか、子育て支援室や園庭で遊ぶことのできる「ひろばの日」、乳児世帯を対象とする「赤ちゃんの会」、看護師が相談に応じる「ちいさな保健室」、離乳食相談・保育所体験・「ふたごの会」・「あかちゃんフリマ」など、園の専門性を積極的に地域に提供している。これらはホームページやSNS、パンフレットの地域内の各所への常置などによって広報し、希望者への年6回の「ひろば通信」の送付や、乳児の育児の知見をまとめた小冊子「ウェルカムベビー」の来園者への配付も行っている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園説明会を実施し、「入園のしおり(重要事項説明書)」の説明をしている 入園時には、手指消毒や換気などの感染症対策を講じるとともに、各家庭1名の参加として、入園説明会をホールにて対面式で実施している。「入園のしおり(重要事項説明書)」に沿って、園利用に関する重要事項を説明しており、同しおりには園の概要のほか、保育の理念や基本方針、年間の行事、食事・感染症や登園の基準などを含む保健面・安全面、保護者に協力してもらうことや園利用に際する決まり、入園時に保護者が用意するものなどについて記載されている。また入園後の生活で用いる日用品については実物を提示し、説明後には質問に答えている。 各家庭と個別面談を行って子どもと保護者の状況を確認し、職員間で共有している 個別の面談では、子どもの発達や生育歴・予防接種の状況、生活リズムのほか、保護者の意向や就労状況などを、保護者が事前に記入した書類を確認しつつ、聴き取っている。面談時の情報は「新入園児個人面談記録」にまとめ、職員間で共有し、適切な援助・配慮につなげられるようにしている。また「保育園生活での持ち物・洋服選びのポイント」や基本的なデイリープログラムを渡し、生活や遊びの様子を伝え、個人マークの作成を依頼している。面談後には重要事項説明書の内容のほか、個人情報や写真の利用に関する同意を署名により確認している。 入園直後の子どもや保護者の負担の軽減に配慮し、卒園後も関わりが継続されている 入園直後の子どもと保護者の不安や負担を軽減できるよう、「慣らし保育」を行っている。0～2歳児では7日、3歳以上児では5日を目安として、徐々に在園時間を延ばし、体験を増やしながらかみじめるようにしており、期間は保護者の事情や子どもの状況を踏まえて、柔軟に対応している。また慣らし保育は、保育者にとっても子どもや保護者との関わりの始まりであり、保育者が「慣れる」ために協力してもらうという意識を持つよう心がけている。卒園後には同窓会や「中学入学を祝う会」「二十歳の会」が実施されており、関わりが継続されている。			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの心身・生活状況の把握に努め、職員間で情報を共有している</p> <p>入園時に把握した子どもと家庭の情報は、定期的に更新している。一人ひとりの成長の推移を記録する児童票として、年齢に応じて適宜月数を決め、心身両面の発達経過を記している。また身体の発達や健康状態は、毎月の身体測定や年2回の健康診断等で確認し、予防接種歴・感染症記録などとともに「保健票」に記録している。保護者との個人面談では子どもの育ちや様子を伝え合い、園とともに育てていきたいことを確認するほか、特別な配慮や支援が必要な場合には、専用のシートに面談の内容を記録し、全体での共有を図り、適切な援助につなげている。</p> <p>全体的な計画をもとに長期・短期の各指導計画を作成し、実践と振り返りを行っている</p> <p>全体的な計画(保育課程)と「BBハンドブック」をもとに、年間指導計画及び月・週の計画を作成し、日々の保育実践にあたっている。今の子どもたちから予想される姿や経験してもらいたいこと、大切にしたい思いを年間テーマとして担任が作成している。年度の間と年度末には、子ども一人ひとりの様子に関するエピソードをもとにした考察や、テーマや活動のねらい、内容等および調理・保健についての振り返りなど、多様な視点を通して子ども理解や支援につなげられるよう、会議でそれぞれの意見を出し合い、計画・実践の見直しに取り組んでいる。</p> <p>一人ひとりに応じた計画を策定し、保護者に育ちの現状や援助の方針を伝えている</p> <p>0～2歳児の月の個別指導計画は、児童票の振り返りを参考に、子どもの成長の今をとらえて策定している。3歳以上児は、個別の発達の理解や援助についての話し合いをクラス月案会議で行い、保育実践への反映に努めている。年度当初の懇談会では、年間を通じた子どもの育ちのねらいや園として大切にしたい子どもとの関わり、行事について保護者に伝え、年度末の懇談会では、年間の保育の振り返りを報告し、進級・就学についての見通しや助言を伝えている。懇談会のほか、「おしゃべり会」でも懇親の場を設け、園と保護者とのつながりを深めている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報の適切な取り扱いや、子どもの羞恥心・プライバシーへの配慮に努めている 法人の個人情報保護方針に、個人情報の取得・利用・第三者提供は本人の同意を得て行うことを定め、ホームページに掲載するほか、入園時に保護者に内容を説明し、同意書への署名により利用の承諾を得ている。羞恥心への配慮として、着替えの際には上下一緒には脱がないことなどを伝えている。またおむつ替えは他者からの視線を避けられる場所で行うほか、シャワーの際も外からの視線が届かない場所で行うとともに、保護者にラップタオルの用意を依頼している。公道に面するガラス窓にはカーテンを設置するなど、ハード面での配慮も行っている。</p> <p>子どもたちの生活と遊びの保障を目指し、個々の状態を職員全員で確かめ合っている 入園時に保護者に配付される「入園のしおり(重要事項説明書)」には、「子どもたち一人ひとりが園生活を無理なく楽しく送れるようにする」「子どもの自発性自主性を大切に、子ども一人ひとりが生活の主人公になれるようにする」など、園の保育理念に基づいて保育を行うための11の具体的な目標と基本方針が示されており、園として、子どもの生活と遊びを保障することが謳われている。子どもの特性や成長を職員全員が把握できるよう、年度当初・中間・年度末の職員会議では、子どもたちの状況を全員で話し合う時間を設けている。</p> <p>虐待防止に向け、予兆の把握に努め、職員に自戒を促し、関係機関との連携に努めている 法人共通の手引書「BBハンドブック」や「虐待対応マニュアル」などには、虐待の種類や早期発見のポイント、発生時の対応などを記載している。セルフチェックシートを用いた振り返りの機会を設け、職員に自戒を求めるほか、家庭における虐待や育児不安が疑われたり、予兆が見られたりする場合には、速やかに職員間の情報共有や関係機関との連携を図ることとしている。また「入園のしおり」の中にも、虐待防止のための措置に関する事項として、園が講じている対策や虐待が疑われる時の通報先を掲載するなど、保護者にも園の取組を伝えている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>「BBハンドブック」や危機管理に関するマニュアルにより、業務の標準が示されている</p> <p>全職員に配付される系列園共通のマニュアル「BBハンドブック」には、人と人の関わり、生活の営み、遊びと活動、保護者との関わり、食事作りと食育、地域への子育て支援などについての考え方や留意点が記されている。また「危機管理マニュアル」には、緊急時の体制・地震・火災・自然災害・事故発生・不審者対策のほか、保健衛生面ではSIDS・誤飲・食物アレルギー・食中毒などに関する基本的な考え方や対応、予防への手順が示されており、必要に応じて通報や職員の動きなどについて、フローチャートを用いて説明している。</p> <p>確実な業務遂行に向け、掲示物や「確認ファイル」を用意し、実技訓練も行っている</p> <p>保育実践において、即時対応や適宜確認が必要な手順については、その場で確認ができるよう、必要に応じて掲示物やプリント等を活用しており、感染症罹患時の登園の基準や医療機関一覧等のほか、各クラスには、保護者に配付している「保育園をご利用にあたってのしおり」や保健・アレルギー・食材のガイドライン等、危機管理に関するマニュアルが収納された「確認ファイル」を常備している。また心肺蘇生術や嘔吐処理、消火訓練等のほか、アレルギー食の提供手順の再確認などの実技訓練も実施し、安全で確実な援助につなげられるようにしている。</p> <p>手引書等は適宜変更し、保育水準の維持や安全の確保に努めている</p> <p>法人共通の手引書等は、要綱・通知やガイドラインのほか、事故報道などをもとに法人が改正することとなり、BBハンドブックについては、改正時には改正部分を配付し、差し替えることとなっている。園独自の基準は必要に応じて改正しており、毎月の会議では安全や保育に関する気づきの共有を図っている。また准職員との認識共有にも努めており、年度当初に園長から保育理念や子ども・保護者との関わりなどに関する確認を行うほか、懇親会を設けて気づきや意見を聴き取り、保育水準の維持や安全の確保につなげている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの全体的な姿の把握に努め、子どもの主体的・自発的な遊びや発達を促している</p> <p>子どもの全体的な姿は、日々の園での様子のほか、保護者から家庭での様子を聴き取るなどして把握している。各保育室には、棚に年齢や発達に応じた玩具等を配置し、コーナーごとでさまざまな遊びができるよう環境を整え、子どもがやりたいことにじっくりと取り組み、主体的に活動できるようにしている。保育室のロッカーには保護者手作りの個人マークを貼り、子どもが自分の場所を理解し、自ら支度や片付けができるようにしている。また遊びと食事の空間を使い分ける工夫のほか、生活の中で安心して過ごせるような配慮も行っている。</p> <p>年齢や個性の異なる子どもたちが、ともに安心して育ち合える環境を整えている</p> <p>3～5歳児は異年齢での縦割りグループを作り、散歩に出かけたり、同じ目的を持って活動をとにもするなどしており、年上の子に憧れを抱きながら同じことをしようとする姿が見られるほか、年下の子に教えてあげたり、世話をしあげたりなど、年齢相互の育ち合いが促されている。朝・夕の合同保育の時間には、年齢に関わりなく同じ遊びを通して小集団で遊びに興じる姿が見られている。異年齢での関わりでは、年上の子どもたちが我慢することがないよう配慮するなど、子どもたちの心情への寄り添いにも努めている。</p> <p>配慮が必要な子どもへの支援や一人ひとりへの適切な配慮が行われている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもへの援助では、専門家の助言を参考にするほか、保護者との面談の機会を設けて認識の共有に努めるなど、各方面との連携を図りながら取り組んでいる。また会議での他クラスの職員の意見も参考とするなど、多様な視点でその子をとらえ、より適切な配慮ができるようにしている。子ども同士のトラブルについては、言葉でのやり取りが難しい子どもには、代弁しながら、気持ちに寄り添った対応を心がけるほか、年齢によっては一緒に考えたり、問いかけたりして、子ども同士で解決したり、気持ちを表現できるよう支援に努めている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>日々の登降園時には、子どもの様子を保護者と伝え合っている</p> <p>登園時には子どもの顔色や機嫌のほか、視診や発熱の状況の確認を行い、保護者から家庭での健康や情緒の状況を聴き取っている。乳児クラスは口頭と「子育てノート」でも食事・体温・睡眠状況等を確認している。視診や保護者から伝え受けた内容等は、伝達用のノートを活用して職員間で随時共有を図っている。看護師も園内を巡回しており、子どもの健康状態を把握し、体調の急変に備えている。降園時にもできる限り口頭で一人ひとりのエピソードを伝えるよう心がけるほか、幼児クラスは壁新聞を作成し、お迎えの保護者に活動等の様子を伝えている。</p> <p>身辺自立への援助は子どもの発達や意欲を踏まえ、個々のペースに合わせて進めている</p> <p>年度前半頃までは、0～1歳児は緩やかな担当制としており、より細やかに個別の発達の状況を把握し、愛着関係を深めながら身辺自立の援助を行えるようにしている。排せつの自立・衣服の着脱などへの援助では、個々の身体機能の発達や関心・意欲などを踏まえながら、一人ひとりのペースに応じて取り組んでいる。園で過ごす時間は可能な範囲でおむつを履かせずに布パンツで過ごし、排尿感とともに開放感を身体で感じることで、徐々に排せつの自立につなげている。おまるやトイレへの促しにおいては、活動の負担にならないような配慮にも努めている。</p> <p>子どもの意欲を尊重して関わり、個々のリズムに応じて休息をとれるようにしている</p> <p>日々の生活や遊びの中で、生活習慣の自立に向けた声かけや問いかけを行うほか、手洗いのイラストや片付け場所への写真添付など、子どもが行動を思い起こせるよう工夫している。棚には個人マークが貼られ、自分の場所から衣服を自ら選び、着替えを始める姿があり、保育者は見守り、適宜声をかけながら、子どもの意欲を尊重した関わりに努めている。乳児では午前寝や夕寝に対応し、休息は個々のリズムに応じて取れるようにしている。午睡は身体を休める時間としてとらえ、年長児は徐々に午睡時間を短くしていくなど、就学に向けた配慮も行っている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもから発信された思いや内容をつなげ、日々の暮らしを豊かに重ねている</p> <p>朝の集まりの会では、子どもと大人との対話を重ね、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聴いたりするほか、子どもの興味を引き出し、子どもが主体的に活動を選択できるようにしている。子どもたちが自由に表現したり、遊びに興じたりしており、子どもたちの思いから派生した「ファッションショー」では、場所の設定から内容の決定、衣装も子ども同士で自発的に考えて作り上げ、皆で楽しむなど、子ども主体の活動が広がっている。保育者は集団に入れない子どもの気持ちを受容し、自ら取り組もうとする心の動きを待ち、見守ることも心がけている。</p> <p>子どもたちが人と関わり、思いを伝え合う力を養えるよう配慮している</p> <p>生活や遊びの中から言葉を獲得できるよう、応答的な対話や言葉にできない気持ちの代弁、絵本やわらべ歌・ごっこ遊びなどの経験を積み重ね、言葉に対する感覚や語彙の獲得、発信する喜びを感じられるようにしている。言葉のリズムや音律を楽しむものなど、さまざまな絵本が用意されているほか、ままごとなどのごっこ遊びや見立て遊びを楽しめる環境も整えられており、子どもたちは遊びを通じて言葉のやり取りを楽しんでいる。わらべ歌遊びが日常的に採り入れられており、全身で身体をふれ合う喜びを感じ、情緒の安定へとつなげられている。</p> <p>身近な環境を活かした多様な活動が、子どもの心身の豊かな育ちにつなげられている</p> <p>自然環境の中で季節を身近に感じられるよう、戸外遊びを日々行っており、仲間とともに思いきり身体を動かして遊んだり、砂・土・草木に触れてごっこ遊びや感触遊びを楽しめる活動を展開している。近隣の公園や広場に出かけ、園庭よりも広い空間でのびのびと遊んだり、昆虫探しやザリガニ釣り、自然物を収集して制作に活かすなど、園外での活動も行っている。また散歩を通して、地域の人とふれ合ったり、街並みなどの環境に親しんだりし、挨拶の大切さや地域の中で育つ認識と安心感が、心の発達やコミュニケーション能力の向上にもつなげられている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが協力し合う経験を重ねながら、皆で作り上げる行事が行われている</p> <p>行事は日々のつながりを大切にし、子どもたちが意欲を高めながら主体的に行事に関われるよう、内容は子どもとともに考え、工夫しながら作り上げている。年長児の「お泊まり保育」では、自然の中でオリエンテーリングや川遊びを仲間とともに楽しみ、役割を分担してカレーライスを作って食べるなど、親元から離れて過ごす2日間を経験し、子ども同士の絆がより深まり、子どもたちの自立心も養われている。夏祭りは手作りの模擬店を開き、祭りの雰囲気を味わっている。年長児は八丈太鼓叩きを保護者に披露しており、それぞれの自信につながっている。</p> <p>年間を通じてさまざまな行事を行い、子どもが主体的に参加できるようにしている</p> <p>「ブレイデー」は子どもたちが日々楽しんでいる集団遊びを親子で楽しんだり、幼児異年齢グループでリレーをするなど、勝ち負けにこだわることなく、発達差に応じて集団遊びのルールに変化をつけ、それぞれが満足感を抱ける内容としている。七夕・節分や「昔遊びの会」など、季節感のある行事には、象徴物の制作や遊びなどを関連させて取り組むほか、各保育室に季節に合わせた装飾を施し、雰囲気を味わえるようにしている。クリスマスの時期に行う「お楽しみ会」は、継続した遊びの劇を披露したり、歌や演奏、踊りなどを楽しむ会となっている。</p> <p>日々の遊びから行事につなげる取組や、行事に挑む子どもの姿を保護者にも発信している</p> <p>子どもたちが過ごす日常生活の中で、子どもの遊びのブームや現在の姿と予測される姿を保育者が見通して、子どもたちに提案をしたり、環境を整えるなど、日々の遊びの姿から行事への取組となることを大切に考え、実践している。行事への取組の中で、子どもたちが自発的に行動する過程を保護者とも共有できるよう、「壁新聞」として園内に掲示したり、園便りやクラス便りに掲載したりするほか、送迎時にも口頭で伝え、皆で行事への期待感を高め合っている。子どもたちが行事後もごっこ遊びとしてさらに内容を深め、楽しむ姿も見られている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもたちが健康的に安心して過ごせるようにしている 保育時間が長くなる子どもの心身の負担の軽減に向けて、朝の視診・適時の検温などの健康観察を行い、健康的に過ごせるようにし、戸外や室内遊び、集団活動と自由遊びなど、活動のメリハリやバランスに配慮している。保育室には子どもがゆったりと心身を休めるような場所を設け、好きな遊びを楽しめるようにするほか、寂しくなってしまう子どもには保育者がスキンシップを図って寂しさを和らげるなど、子どもたちの気持ちや体力の状況に応じた配慮を行っている。また入園当初には「慣らし保育」を行い、徐々に保育時間を延ばしていくようにしている。</p> <p>異年齢の子どもたちが安全に過ごせるような配慮や環境構成を心がけている 朝夕の合同保育では、子どもたちがそれぞれの得意なことや好きなことに取り組むことができるようにしている。延長保育時間(「えくぼ」)は乳児・幼児の合同保育となるが、異年齢でも安全に過ごせるよう、保育者が声かけや配慮をしたり、その時ならではの玩具を提供したりして、子どもたちがそれぞれ遊べるようにしている。また補食の提供も行い、お腹も一定程度満たしたうえで、保護者の迎えを落ち着いて待てるようにしている。延長時は「延長保育日誌」に子どもの様子や伝達事項を記録し、翌日の保育へとつなげている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>食べることを楽しめるよう、献立・調理方法などの工夫や個別の配慮に努めている 献立は四季折々の旬の食材を中心に組み立てるほか、和食中心としつつも、洋食・中華などもバランスよく採り入れている。2週間のサイクルメニューを活用し、同じメニューでも材料の配分や具材の形状を変えるなどして、多様な味わいを体験できるようにし、子どもの食べ具合を見て、次の提供時の工夫や配慮に活かしている。子どもが苦手な食材やメニューは、食の経験を損なわないよう適宜勧めつつも、無理強いをしないようにしている。4・5歳児はホールで喫食しており、コロナの感染拡大防止に留意しながら、楽しく食事を摂れるようにしている。</p> <p>安全に配慮したアレルギー対応や離乳食への対応と配慮に努めている 離乳食は0歳児室に併設された専用の調理室で作られており、専任の調理員が一人ひとりの状況を把握し、保護者との連携を図りながら無理なく安全に進められるよう支援を行っている。匂いや湯気、調理工程の音などを身近に感じることで、遊びを終えた子どもが、食を欲する自身の身体のリズムを体感し、食への意欲が促されている。食物アレルギーがある場合は、医師の指示書をもとに詳細を聴き取ったうえで、除去・代替食の対応を行っている。また卵・牛乳を使用しない献立作成も行い、他の食材での代替によって栄養素を補えるよう工夫している。</p> <p>さまざまな食育活動の取組が子どもの食に対する意欲を高めている 子どもの食に対する姿勢を育み、意欲・関心を高めるために、さまざまな食育活動を行っている。野菜栽培や年齢に合わせた調理活動、旬の自然素材を活用した梅干しや味噌・たくあん作りなど、四季や素材の変化を感じ、おいしさを共感する経験を積み重ねている。また米や果物など提携先の農家の方とのつながりから、食の営みを身近に感じ、年長児は農家の方からの助言をもらいながら米作りに取り組み、飯盒で米を炊いて新米を味わったり、サンマの炭火焼きや鮭の解体を目の前で体験したりするなど、さまざまな食の取組を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>健康への意識や、生活の所作の定着を促す、保健指導や援助を行っている</p> <p>子どもが自分の身体や健康への意識を持ち、主体的に行動したり、暮らしの中のさまざまな所作を身につけたりできるよう、看護師による保健指導のほか、日々の保育実践においても、保育士による保健指導や援助を行っている。清潔や衛生に対する子どもの意識を育めるよう、排せつの援助や口拭きなどの際には、清潔の心地よさを言葉にして伝えている。手洗い指導では手順だけではなく、意味や必要な場面についても伝えている。そのほか、咳エチケットや鼻のかみ方、排便後の処理などについては、日常の保育の中でそのつど個別に対応している。</p> <p>自分の身体を大切にすることを育み、危険や非常時への対処を教えている</p> <p>子どもが自分の身体を大切にすることを育めるよう、プライベートゾーンや命の誕生に関する話をするほか、身体測定の際には子どもたちと成長の喜びを共有している。ケガを防ぐことができるよう、体力・体幹・柔軟性を培う身体を使った遊びや活動を採り入れている。園庭遊びや散歩などの戸外活動やプールなど水遊びの際には、危険な場所や危険なことに関する注意喚起を行うほか、室内活動においても、安全な道具の使い方などを伝えている。毎月の避難訓練では、自分の身を守るための行動や動作・姿勢などを、標語なども活用しながら教えている。</p> <p>健康を維持するための取組を行い、保護者への情報発信や嘱託医との連携に努めている</p> <p>登園時の視診の情報を職員間で共有し、午睡後に検温を実施するなどして、体調の変化に気づけるよう努めるほか、適時の水分補給・睡眠時の呼吸等の確認・猛暑時の外出の自粛、施設内各所の消毒や室温湿度の管理、換気など、さまざまな対策を講じている。保護者に保健情報を発信しており、感染症が園内で発生した場合には、状況や予防への注意点を発信するほか、保健便りを発行して、身体や健康に関する情報を伝えている。嘱託医との連携も図られており、定期的に行う健診だけでなく、医療情報の提供や相談に応じてもらっている。</p>		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評			
<p>子どもや保護者の状況を把握し、個々の状況に応じた援助に努めている</p> <p>入園時には、各種書類や面談により、子どもの発達や生活リズム、健康の状態のほか、保護者の就労や家庭の状況、育児に対する考え方や要望などの情報把握に努め、職員間で共有し、園のできる限りの対応につなげている。食物アレルギーや慢性的なケアが必要な塗り薬の塗布などに対応している。就労事情や公共交通機関の遅延、通院などの理由で、保育時間や利用日に変更がある場合には、延長保育のスポット利用にも柔軟に対応するほか、年間行事予定は年度当初に配付するなど、保護者の行事への参加の利便向上に努めている。</p> <p>保護者との協同を目指し、子どもの様子を伝え合い、信頼関係を築けるよう努めている</p> <p>園を保護者と保育者が子どもの育ちを支える「協同の場」と位置づけ、その姿を子どもに示すことも大切な大人な役割であるとの考えを保護者に伝えており、「入園のしおり」にその旨を掲載している。子どもの様子を定期的に振り返り、全職員で共有して、個々に応じた援助につなげ、送迎時の対話や個人面談などを通じて、保護者と子どもの成長を伝え合っている。また有志の保護者と保育者が、園庭整備や木製家具のメンテナンス等を行う「ワークショップ」は、子どものために大人たちが協力し、信頼関係や相互理解を深める機会となっている。</p> <p>保護者同士が交流する機会を設けるほか、子どもの成長を保護者に伝えている</p> <p>クラス懇談会を行っており、春に実施される回では挨拶と顔合わせを行い、秋の開催では子育てに関する関心ごとや困り事などを懇談する時間を設け、保護者同士の交流が深められるようにしている。また「プレイデー」では、子どもたちが日々楽しむ集団遊びに取り組む様子を保護者とも共有しており、保護者同士の交流も図られている。毎日の活動は、保育所保育指針におけるいわゆる「10の姿」との関連なども意識しながら「壁新聞」で報告し、園・クラス・保健の各便りを通じて育児の参考となる情報や子どもの成長を保護者に発信している。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用して、子どもたちが多様な体験ができる機会を設けている</p> <p>地域資源を活用して、多様な体験ができる機会を設けている。地域の方と出会った時には挨拶を交わすなどの交流が図られているほか、ボランティア団体による絵本の読み聞かせも行われている。また地域の図書館や体験学習館に出かけており、職員の方と挨拶を交わすほか、利用を通じて公の場でのルールも学ぶ機会ともなっている。コロナ禍前には地域の老人クラブとの関わりが持たれ、年配者の方々が来園して主に3歳児と交流しており、一緒にごっこ遊びや折り紙を楽しんだり、歌を歌ったりするなど、高齢者との交流が持たれている。</p> <p>職場体験やボランティアなど、子どもたちがさまざまな人と交流している</p> <p>職場体験やボランティアなど、子どもたちがさまざまな人と交流する機会が設けられている。中学校の職場体験や養成校の学生の実習などを受け入れており、子どもたちとのふれ合いが持たれている。そのほか、野菜の仕入れ先の農家の方々とオンラインで交流し、稲の種籾や肥料を送ってもらい、稲作に取り組むほか、元職員が来園して昔遊びを楽しんだり、方言を使った素話などを体験したりしている。歯科衛生士が来園し、歯磨き指導が行われるほか、「ブレイダー」は保護者と、「冬遊びの会」では祖父母とふれ合い遊びを楽しんでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	自然や起伏にあふれる園庭を起点に、子どもたちの豊かな戸外活動が行われている	
内容①	乳児・幼児の各園庭は、発達に応じて運動遊びや探索活動等を体験できるよう、種々の遊具や多様な植栽のほか、起伏や幼児園庭の複数の逍遥ルートなど、さまざまな工夫が凝らされている。起伏ある園庭での遊びは、体幹や柔軟性のほか、危険を察知する力を養い、四季折々に表情を変える木々は、花や芽吹、紅葉、落葉などによって子どもたちに季節の移ろいを知らせ、木の実や枝葉は見立てや再現の遊びの格好の材料となっている。また植栽によってできた空間は、子どもがそっと身を隠したり、少人数で会話を楽しんだりすることのできる場所にもなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	離乳食・アレルギー食提供や食育活動など、食の充実を図る多様な工夫がなされている	
内容②	生きる力の基礎となる食の営みを子どもたちが日常的に体験し、食に対する意欲や興味を高め、食べることを好きになれるよう、さまざまな活動に取り組んでいる。食の初めの一歩である離乳期には、専用の調理室できめ細やかな調整を図り、アレルギー食材の除去が必要な食材を使わない献立を毎月作成するなど、一人ひとりの状況に応じた配慮を行っている。また野菜の植え・栽培・収穫のほか、稲を苗から育て、脱穀して飯盒炊飯で食べる喜びを味わい、梅干しやたくあん作りなどで食材の変化を五感で感じながら、子どもたちの食への興味を深めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル③	子どもの生活習慣の自立は、それぞれの身体のリズムや感覚に寄り添いつつ支援している	
内容③	子どもの身体のリズムや意思・欲求に寄り添い、ペースを踏まえた生活習慣の確立への援助を行っている。発達などにより異なる個々の睡眠のリズムにも応えられるよう、場所と見守る大人を確保できるようにするとともに、排せつの自立への援助では、おむつを履かせずに布パンツで過ごし、排せつに関わるさまざまな感覚を身体で感じられるようにしている。おむつ以外で排せつする経験を大切にすることは、本来他者によって制限されるべきではない、子どもが自ら発達する力や可能性を尊重する、一人ひとりの人権の保障にもつながる営みとも位置づけている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりの意思や提案を尊重し、そこから生じた興味をつなげた活動や集団での関わりを展開している
	内容	子どもの主体性を尊重した保育実践に努めており、日常的な遊びの中で子どもたちが思い思いにイメージを広げ、子ども同士で対話をする中で、大人も関わりながらイメージを具体化させている。そこから発展した劇遊びやなりきり・ごっこ遊びなどで他クラスとの遊びを通じた交流も行われ、園生活ならではの内容や集団での遊びが展開されている。また0歳児から絵本の読み聴かせやわらべ歌遊びなど、ゆったりとした時間の中で応答的な関わりを楽しみ、個々の育ちに寄り添うことで、安心感のもと自己表現できる力が養われ、豊かな感性や情操が育まれている。
2	タイトル	多様に設けられる行事は、子どもたちの主体的・自発的な取組や、季節を感じ取りながら楽しい気持ちを抱く経験の機会となっている
	内容	行事は日々の保育の充実を図りながら、子どもたちが主体的・自発的に取り組むことができるよう、応答的な対話を積み重ね、表現してみようとする意欲や、子どもたち一人ひとりが満足感を得て、楽しい気持ちを抱けるように実施している。夏の縁日、秋の「プレイデー」「サンマの会」や「野焼きパン」、冬には「お楽しみ会」「昔遊びの会」など、子どもたちが季節を感じながら行事を経験している。また年長児では豊かな自然環境の中で夏の「お泊まり保育」を実施しており、親元を離れて過ごした経験が成長と自信につながり、自立心を育てている。
3	タイトル	保護者との連携と協同を深めるさまざまな取組や、未就園家庭への多彩な支援など、地域の子育てを在園・在宅の別なく支えている
	内容	保育の理念の一つとする「保護者とともに子育てをすすめる」ことの実践として、さまざまな取組を行っている。日々の登降園時の交流に加え、個人面談や保育参加、有志の保護者と保育者が協力で園庭整備や家具のメンテナンス等を行う「ワークショップ」、保護者懇談会や「おしゃべり会」での保護者と保育者の語りなど、家庭との連携と協同を深めている。また一時保育や園庭開放、看護師による保健相談、元職員の知見や経験も活かした、専用室「スイミー」での子育て家庭同士の交流の支援など、地域の子育て家庭にも園の機能を積極的に還元している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	経営層の目指す「一人ひとりが『語れる』組織づくり」に向け、文化の継承と更新の両面の視点を持った組織運営をさらに続けられたい
	内容	利用者調査では前回に続き高い支持を得ており、自由意見からは園として自負し、特色としている保育の価値が、保護者の理解と評価を得ていることもうかがえる。経営層は今後も保護者や地域から信頼され続ける園であるために、各職員が園や法人の目指すものをより深く理解し、内外に発信してゆくことを課題と考えている。経営層には、紡がれた経験・知見や園に根づく伝統を次の世代に伝えつつ、現場・保護者とともに今後さらにニーズが高まるであろうICT化についても検討を進めるなど、文化の継承と更新の両面の視点を持った組織運営が望まれよう。
2	タイトル	園作成の「短期中期計画」は、内外の状況に応じて内容をそのつど見直し、園の課題解決と前進の羅針盤として活かしてゆくことが期待される
	内容	「短期中期計画」に、「体制・保育他」「工事・補修関係」の各分野で、令和6年度までの各年度の重点課題を定めている。工事・補修については想定よりも早く老朽化が進み、前倒しでの対応が続いており、今後も必要のつど対応を図ることとなるが、体制面では中堅層のさらなる育成や、それを担う上位職者層の指導力向上などを課題としており、各階層の具体的な成長像など、達成イメージを経営層間で共有しつつ、必要な取組を検討されたい。また今後予想される利用ニーズ縮小についても、状況を見つつ柔軟に方策や計画を見直し、対応することが望まれる。
3	タイトル	子どもの主体的な活動と多様な経験を、安全の確保と両立させつつ保障するために、安全管理の機能をさらに高める工夫を期待したい
	内容	乳児・幼児の各園庭での活動をはじめ、子どもたちの豊かな戸外活動の保障に取り組んでいる。その中で無用のケガ等を防げるよう、事故やヒヤリハットの事例の把握と検討もなされているが、軽微なケガの原因・対策を含めた記録と共有の仕組みや、ヒヤリハットの収集と共有の活性化など、さらなる工夫の余地も見られる。子どもの主体的で活発な活動と多様な経験を保障しつつ、事故やケガを抑制するための工夫や、そのための保育者の危険の把握・予測の意識を高める研鑽などについて、園や法人の方針にも照らしつつ検討することも一考されたい。